

シャインマスカットのホルモン処理

シャインマスカットは大粒で種がないという特徴がありますが、その特徴を発揮させるためには、適期でのホルモン処理が欠かせません。天候を確認しつつ適期での作業を心掛けましょう。

1 フルメット花穂発育処理

- ・樹冠拡大中の若木など（5年生程度まで）の果粒肥大が不十分な樹では、開花前に花穂発育処理を実施します。成木など果粒肥大が十分な場合は必須作業ではありません。

【時期】展葉6～8枚期

【濃度】フルメット1～2ppm（水1リットルにフルメット1～2ml）

【方法】ハンドスプレーなどで花穂に処理液を散布します。

2 ストレプトマイシン処理

- ・無核（種なし）化を確実にするため、開花前にストレプトマイシン処理を必ず行います。

【時期】満開14日前～開花始期（大半の新梢が展葉9～10枚になった頃）

【濃度】ストレプトマイシン200ppm（アグレプト液剤等の1,000倍液）

【方法】花穂に処理液を浸漬または散布します。散布する場合は、かけムラができないよう花穂全体に丁寧に散布します。

3 1回目ジベレリン処理

- ・1回目のジベレリン処理は無核化と着粒安定等を目的に実施します。

【時期】満開～満開3日後

【濃度】ジベレリン25ppm＋フルメット5ppm

（水1リットルにジベレリン成分25mg＋フルメット5ml）

【方法】花房に処理液を浸漬します。

【注意点】満開の判断は、花房中のすべての花が咲いた日とします。

夕方など、処理液がすぐに乾かない条件が効果的です。



図1 1回目ジベレリン処理適期

4 2回目ジベレリン処理

- ・2回目のジベレリン処理は果粒肥大促進を目的に実施します。

【時期】満開10～15日後

【濃度】ジベレリン25ppm（水1リットルにジベレリン成分25mg）

【方法】果房に浸漬します。

【注意点】処理液が果粒表面に長い時間残るとジベ焼け（かさぶたのようなもの）が発生しやすくなります。晴天日など、処理液が乾きやすい条件で実施し、処理後は余分な処理液をふるい落としましょう。